

《担当者名》竹生礼子 [take-r@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

在宅看護学特論・演習及び種々の科目の学修をもとに着目した研究課題に関連する実習場所を選択する。在宅看護は、病や障害とともにある療養者と家族の生活の場におけるQOLの維持向上をめざす看護実践であり、病院（病棟、外来）、施設（入所・通所）、訪問看護ほか、看護を提供する場を問わない。目的によって多様な場での実習を検討してよい。実習の目的を明確にし、目的・目標を達成できるように取り組む。実習での学びにより、研究課題がより明確になるようにする。

【学修目標】

1. 自身が在宅看護学に関連する研究課題として着目した対象者及び現象について理解を深めることができる。
2. 実習でえた学びから、在宅看護学に関連する課題を明確にし、課題研究の準備に反映させることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習計画	実習計画書を作成する。 実習目的・目標・方法を記載する。	竹生
	実習方法	1) 実習場所：自身の実習目的・実習目標に照らし合わせて、適切な実習場所を学生と教員間で決める。 2) 実習期間：おおむね2週間とする。 3) 実習内容：実習目的を達成するために行う内容を計画し、実施する。 例：インタビュー、参加観察など 4) カンファレンス：実習で学んだ成果を討論する。 5) レポート：実習後レポートを作成し、提出する。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況（40%）、実習レポート（60%）

【教科書】

適宜紹介

【学修の準備】

実習目的を明確にし、実習計画を立案する。文献検討や実践の中から浮かび上がった疑問・課題をまとめておくこと。